

プロジェクト リース

項目 第 469 回企業会計基準委員会で聞かれた意見

本資料の目的

1. 本資料では、第 469 回企業会計基準委員会（2021 年 12 月 3 日開催）の審議で聞かれた主な意見をまとめている。

IFRS 第 16 号と整合性を図る程度について

2. IFRS 第 16 号の主要な定めの内容のみを採り入れるという事務局提案につき、賛成する。
3. IFRS 第 16 号の主要な定めのみを採り入れることを方針とする場合、採り入れられなかった内容に関する適切な会計処理は、IFRS 第 16 号における詳細なガイダンスに基づく会計処理に限定されないこととなると理解している。
4. 主要な定めではないとして採り入れられなかった内容に関する適切な会計処理は IFRS 第 16 号における詳細なガイダンスに基づく会計処理に限定されないという認識が浸透することで、日本基準に採り入れられなかった内容について IFRS 第 16 号におけるガイダンスを参照するようなコストが生じないこととなり、現状の実務を生かした会計処理が可能になると考える。
5. 主要な定めのみを採り入れることで判断が可能となり、利便性が高くなるものと考ええる。ただし、一部の内容については、詳細なガイダンスを定めることが利便性を高める場合もあり得るため、主要な定めの粒度については一律にではなく、内容に応じて判断していくことが必要と考える。
6. 主要な定めの内容のみを採り入れる場合、国際的な会計基準との比較可能性や、会計処理を行うために必要な粒度に留意して主要な定めの範囲を考慮する必要があると考えられる。
7. 重要性が高くない項目に詳細なガイダンスを含めることが実務負担を生じさせる場合もあり、詳細なガイダンスを含めないことで財務諸表作成コスト及び監査コストが相対的に大きくなることも限らないと考える。

以 上